

## 南砺市地域公共交通計画（案）についての パブリックコメントの結果について

南砺市地域公共交通計画（案）について、広く市民の意見を反映させるため、パブリックコメントを実施したところ、その結果は次のとおりでした。

1. 募集案件 南砺市地域公共交通計画（案）
2. 募集期間
  - ・令和6年2月2日（金）から令和6年2月21日（水） 20日間
3. 閲覧場所
  - ・南砺市公式ホームページ
  - ・各市民センター、中央図書館および地域包括ケアセンターの情報公開コーナー
4. ご意見の提出方法
  - ・郵送
  - ・ファックス
  - ・電子メール
  - ・直接持参
5. 提出されたご意見（件数）
  - ・個人2件（電子メール2件）
6. ご意見の内容  
別添による。
7. 市の考え方（回答及び対応）  
別添による。

南砺市地域公共交通計画(案)に対して、市民から提出されたご意見と市の回答  
について

令和6年2月26日

総合政策部 政策推進課

令和6年2月2日(金)から令和6年2月21日(水)にかけて実施した南砺市地域公共交通計画(案)に対するパブリックコメントにつきまして、貴重なご意見をありがとうございました。

期間中に寄せられましたご意見は2件でした。

それらのご意見をまとめた内容と市の回答を公表いたします。

## 市の考え方（回答及び対応）

令和6年2月2日（金）から令和6年2月21日（水）まで実施した「南砺市地域公共交通計画（案）」についてのパブリックコメントにおいて、期間中に2件（10項目）のご意見をいただきました。

ご意見の内容と市の回答及び対応は次のとおりです。

受付番号	ご意見の内容	市の回答及び対応
1	○公共交通網におけるJR城端線が大半を占める状況下で、「城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画」との整合性が重要と考えます。同計画の施策が具体的にみえてきたところで本計画の見直し・再評価が必要かと思えます。	城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画については、令和6年2月8日に国の認定を受け、計画書に記載のあるとおり、新型車両の導入や、運行本数の増加、交通系ICカードの導入、両線の直通化等の利便性向上策に5～10年をかけて取り組むこととなります。 ご指摘のとおり、施策の具体的内容に応じて地域公共交通計画の内容について見直し・再評価を行う必要はあると考えており、総合公共交通計画等検討委員会で協議検討を重ねてまいります。
2	○利用者アンケート調査の対象数が前計画の2,236名(P11)に対し本計画の123名(P12)と非常に少ないが、アンケートとして、サンプル数、男女比など有効なデータ数でしょうか？	平成31年度に策定された網形成計画では、「公共交通のあり方に関する意識調査」の調査対象と結果を掲載しておりました。これは、幅広い年齢層の市民を対象に市営バスの見直しの必要性等について意見を伺ったもので、対象者には市営バス利用者134名を含んでおりました。今般の計画策定では、網形成計画の基本的な考え方を踏襲しつつ、市営バスの利用者に対して直接アンケートを行うことで、より具体的なニーズを把握し、計画の内容に反映しております。
3	○南砺市地域公共交通網形成計画(H31.3)13-14pで示されている課題(平野部/山間部/交通システム)に対し、どのように検証・評価して、どのように具体的に今回の計画に反映されているのでしょうか。本計画の中で、前計画の課題に対する検証評価を行うべきでは？	網形成計画では、市内各地域及び公共交通全般における課題について、全体目標をはじめ、各種交通体系やシステム等が目指す目標を設定し、目標達成のための事業、その評価基準等を定めました。これらの検証については事業実施年度ごとに、南砺市総合公共交通計画等検討委員会へ報告し、検証評価を重ねており、その内容は、毎回の委員会開催後にホームページで公表しております。
4	○バス網に際し、病院への通院を考えた場合、本数以外に所要時間、到着時刻(受付時間との兼ね合い)、帰宅時を配慮した時間、他交通機関との接続など具体的な検討評価が重要と考えます。	ご指摘のとおり、公共交通の移動目的は様々であり、それぞれに利用しやすい時間帯や所要時間等があり、多くの方々が便利に使い易い時刻設定や他交通機関との接続に配慮した設定が必要であると考えております。 現状でも、病院への接続については、診療時間帯に1時間に1本の乗り入れを確保しつつ、JR城端線や民間バス路線や他の市営バス路線からの乗り継ぎ等に配慮するなど、利便性の確保・向上に努めております。
5	○「地域公共交通網形成計画の達成状況の評価に関する事項」において、評価項目/達成目標自体の見直し(数値自体は更新されていますが)は行われているのでしょうか？	公共交通利用者数の推移については、コロナ禍を経て一時大きく減少しましたが、コロナ禍前は、網形成計画に掲げる達成目標の実現に向けて概ね順調に推移していました。今般の地域公共交通計画では、コロナ禍を経て激減し、回復しきっていない交通需要を踏まえた上で、網形成策定時の数値目標を参考に、評価項目/達成目標の見直しを行いました。
6	○全体的に、前計画書の数値の更新、新規分の追加による構成の印象が強く、全体的な見直しはされているのでしょうか。	前述のとおり、全体的には網形成計画時の考え方を踏襲しつつ、鉄道事業再構築実施計画のような大きな変更事項やコロナ後の本市の現状を踏まえ、まちづくりと連携した公共交通の将来計画を示すための、見直しを行っております。

受付番号	ご意見の内容	市の回答及び対応
7	<p>「表紙」 計画期間「令和6年度（2024年度）～令和10年度（2028年度）」を表紙に明記するとよいのではないのでしょうか。 計画が職員や関係者・関係団体・住民に活用されやすくなり、計画の実効性が高まります。 「南砺市SDGs未来都市推進実施計画」では計画期間を表紙に明記しています。また、近年、他の自治体でもこうした事例が増えています。</p>	<p>計画施行時ならびにホームページ等での公開時には、表紙に計画期間を明記いたします。</p>
8	<p>「P15 5（1）JR城端線 ② これからの方向性」 パブリックコメント開始後に決定・報道された次の点は重要事項ですので、追加して盛り込んでください。 「富山県などが国に申請した「鉄道事業再構築実施計画」が2024年2月に認定され、JR西日本の城端線と氷見線は2029年頃をめどにあいの風とやま鉄道に移管されることが決まりました。」</p>	<p>城端線・氷見線鉄道事業再構築実施計画については、令和6年2月8日に国の認定を受け、新型車両の導入や、運行本数の増加、交通系ICカードの導入、両線の直通化等の利便性向上策に5～10年をかけて取り組むこととなります。 これらの内容については、南砺市地域公共交通計画の中にも既に記載してありますし、計画に基づく取り組みを推進するとともに、「城端線の利便性向上により、沿線各駅が公共交通の結節点の役割を果たし、人が集う「まちづくりの拠点」となることを目指す」こととしております。</p>
9	<p>「P26 目標2のサブ目標」 次の【】内を補足してください（このサブ目標を掲載している他の箇所も同様）。 「2-1 高齢者【・障害者】を含めたあらゆる市民および来訪者に分かりやすい情報提供を行う。」 また拠点となる駅のうち、城端駅よりバリアフリー情報が不足している福野駅・福光駅については、JR西日本と協力して、JRおでかけねっとサイト掲載情報改札内外のアクセス情報と案内図の情報を補足していただけないでしょうか。</p>	<p>「高齢者を含めたあらゆる市民および来訪者」には、障がい者の方も含むものと理解しております。 ご指摘のJRおでかけねっとサイトの掲載情報、開催内外のアクセス情報と案内図情報の補足については、確認調整の上、速やかに補足修正を行います。</p>
10	<p>「奥付」 奥付を設け、計画名、発行年月、ご担当部署名、電話/fax/メールアドレス、等を載せてください。</p>	<p>計画施行時ならびにホームページ等での公開時には、奥付を設け、計画名、発行年月、担当部署名、電話/fax/メールアドレスを明記いたします。</p>